

様式第5号（第10条関係）

パブリックコメント実施結果報告書
【案件名：つくば市スーパーシティ基本方針（案）】

令和3年（2021年）4月
つくば市政策イノベーション部
科学技術振興課スマートシティ戦略室

■ 意見集計結果

令和3年(2021年)1月22日から令和3年(2021年)2月21日までの間、つくば市スーパーシティ基本方針(案)について、意見募集を行った結果、21人(団体を含む。)から21件の意見の提出がありました。これらの意見について、適宜要約した上、項目ごとに整理し、それに対する市の考え方をまとめましたので、公表します。

提出方法別の人数は、以下のとおりです。

提出方法	人数(団体を含む。)
直接持参	1人
郵便	1人
電子メール	0人
ファクシミリ	0人
電子申請	19人
合計	21人

■ 意見の概要及び意見に対する市の考え方

○つくば市スーパーシティ基本方針(案)概要について

No.	意見概要	意見数	市の考え方
1	基本方針(案)を詳しく知りたい。	1件	本案を詳しくお伝えし、御意見をいただくためのオープンハウスや住民説明会を開催しました。令和3年2月15日(月曜日)に開催したYouTube配信による住民説明会については、録画映像を公開しています。以下の外部リンクより御覧いただけます。 https://www.youtube.com/watch?v=WzJr_wuypaM
2	感染症に強いスーパーシティを作ってほしい。	1件	本案の5先端的サービスに「インターネット投票の実施、自動配送ロボットやドローンによる配送の実施、遠隔医療の推進」など、非接触を実現する感染症対策に有効な施策があります。感染症対策をはじめ社会の課題を解決するための取組を進めていきます。

3	<p>つくば市が先頭を切らなくても、他の自治体で取り組んで得られた成果を市民に還元すればよいのではないのでしょうか。革新的な暮らしやすさではなく、普通の暮らしやすさを実現する施策を希望します。</p>	1 件	<p>つくば市には交通やインフラ等、様々な課題があり、従来のやり方では対応が困難になってきています。そのため、既に確立された対応策だけでなく、研究学園都市であるつくば市内で生まれた科学技術の研究成果も積極的に活用していくべきと考えています。</p> <p>最先端の科学技術は、持続的で、革新的な暮らしやすさを実現させる大きな要素と考えていますが、一方、その科学技術を用いた革新的な暮らし、サービスは強制されるものではなく、必要な人が選べるようにしたいと考えています。したがって、御意見のとおり、選択肢を広げるためにも他の自治体で既に成果が出ているサービスについても取り入れていきたいと考えています。</p>
4	<p>ビッグデータを活用し、行政業務の効率を図ることは賛成です。我々ホモサピエンスはお互い協力し合い、言葉と文字を持ったことで今日まで生をつないできたと言われていています。</p> <p>地域で助け合いながら日々を送ることは新しい喜びが生まれるだろうと感じています。</p> <p>これをAIとかIOTなどに置き換えることは人類そのものの基本的な要素を取り上げかねません。AIとかIOTは本来人類が持っている力を発揮できるよう支援に回るものと考えます。</p> <p>そのあたりの位置づけをもっと説明してください。</p>	1 件	<p>AIやIoTなどの技術と人との関係については、本市としても同じ思いです。</p> <p>人類がAIやIoTなどの最先端の技術へ置き換えられることなく、そのような技術の活用により、市民サービスを向上させ、市民の皆様の暮らしを支えるものでなければならないと考えています。</p> <p>したがって、位置づけについて本案のコンセプトとして新たな記述を加えます。</p> <p>(■修正の内容「先端技術活用の位置づけ」参照)</p>
5	<p>どの案についても便利になりそうだと思いますが、それが今後の</p>	1 件	<p>本案の5先端的サービスは、いずれもつくば市が抱える社会課題を克服す</p>

	<p>つくば市の街づくりの中でどのような位置づけにあるのか、全体像が見えにくかったので、それがわかりやすくなると良いと思いました。</p> <p>また、各項目とも効果については書かれていたのですが、「誰のどのような困りごと」を解決するのかがわかりにくかったので、わかりやすくしてほしいと思います。</p> <p>あとは、これらに取り組む前につくば市HPの情報の見やすさだったり市民からいかに多くの意見やニーズを吸い上げるかということもはっきりスマートにしてほしいなというのも少し思いました。</p>	<p>るためのものです。主に地域にお住まいの高齢者や外国人居住者、学生、子育て世代などを対象としていることから、対象者をわかりやすく示す新たな記述を加えます。(下記、■修正の内容「対象者の明確化」参照)</p> <p>まちづくりの中での位置づけ、誰のどのような困りごとを解決するのかについては、市民の皆様との対話を重ねながら、スーパーシティとして採択された後に作成する区域計画(基本構想)の中にわかりやすく反映させていきたいと考えています。</p> <p>HP等での情報発信や市民意見の把握方法については、御意見のとおり、スーパーシティの如何にかかわらず、都度、改善に努めていきます。市民の皆様「伝わりやすい」方法だけでなく、市民の皆様が「伝えやすい」といった双方向の視点で進めていきたいと考えています。</p>
6	<p>一昨年、AI路面診断システム実証実験が実施されたが、その結果はつくば市ページのどこにも掲載されていない。</p> <p>費用負担が発生しなくても、結果が公表されないのであれば、スーパーシティと称する計画に公金を使うことには強く反対する。</p> <p>AIやビックデータ等のバズワードに振り回されることなく、今ある技術で、生活の中の「困りごと」の解決を図り、住民が「住みたい、住み続けたい」と感じるより良い未来社会を実現していただきたい。</p>	<p>1 件</p> <p>AIによる道路の路面診断について、実証実験が完了していないために結果を公表していませんでした。一方で開始から一定の期間が経過していることから、進捗状況を市のホームページなどで公表していきます。</p> <p>このほかにも市では様々な実証を行っています。今回の反省を踏まえ、その進捗状況や結果を市民の皆様に分かりやすく伝えられるような情報発信に努めていきます。</p> <p>また、最先端の科学技術は、困りごとの解決のために必要な人に新たな選択肢を与えるためのものと考えています。決して強制されるものではなく、御意見のとおり、必要な人もそうでない人も「住みたい、住み続けたい」と感じ</p>

			るより良い未来社会の実現を目指していきたいと考えています。
7	<p>スーパーシティの数値目標を示すことで事業の目指す姿がはっきりすると思う。本事業を客観的に評価できる数値指標があれば、つくば市の住民や事業者だけでなく、市外にもPRすることができ、転入者の増加や事業者誘致等、さらなる発展につながる。一方、数値的指標がないまま事業を進めれば、不効率なIoTシステムができあがり、メリットよりも維持管理コストなどのデメリットが大きくなり、将来世代におもくのかかることになってしまう。数値目標は抜け道ができないよう、内部関係者だけで決めず、受益者または専門家を交えて決めることが大事だと思う。</p>	1 件	<p>本案は、つくば市のまちづくり理念である「つくば市未来構想」において、「市民のために科学技術をいかすまち」の方針に則して策定します。スーパーシティの数値目標は、この上位計画との整合を図るとともに、とりわけ個別の先端的サービスにおいて効果(メリット)が客観的に把握でき、定期的な PDCA サイクルのもと、必要な軌道修正を図りながら進めるために有効なものが必要だと考えています。スーパーシティとして採択された後の区域計画(基本構想)の作成の段階で決定することになると想定していますが、市民の皆様の評価を明らかにする重要な成果指標となることから、有識者等も交えて検討して決まっていきたいと考えています。</p>
8	<p>他自治体の類似する計画および実施事例について、どのような事例が、つくば市の想定する四つの対象区域が参考にするに相応しい事例と考えるか、調査結果とその評価を示して頂きたい。(2013年度から始まった総務省の「ICT活用スマートタウン」構想に基づき、多くの実証実験や、実用化も行われ、実効性の評価も行われてきたはずである。単に区域指定応募のための構想ではなく、これまでの実績を踏まえた基本方針や計画であるべきではないか?例えば、「柏の葉キャンパスシティ」などの事例。)</p>	1 件	<p>他自治体の事例については、例えば福島県会津若松市が、アプリを活用して、個人の属性情報(データ)に基づいて、その人が知りたい情報を必要なタイミングで自動的に届けるシステム「会津若松プラス」を整備しています。市民の同意/許諾を得ながら進める「オプトイン」方式を適用し、市民主導でデータ連携を進めている点は、四つの対象区域のいずれにおいても相応しい参考事例と考えています。また、千葉県柏の葉では、エネルギーマネジメントなどが計画され、駅周辺のまちづくり(新市街地開発)とあわせて進められているのが特徴です。つくば駅周辺区域の取組を具体化していく中で先行事例として参考にしていきたいと考えています。</p>

9	ニーズの優先順位を確定し、そのニーズを満たすために、現状の組織・ヒューマンネットワークに対して、どのようなデジタルインフラを形成・結合するのが良いか、その方法論が必要ではないか。	1件	市民の抱える社会課題の解決やニーズを満たすために先端的サービスを活用していきます。そのためにニーズの優先順位の確定、組織・ヒューマンネットワークとデジタルインフラの形成・結合の方法論の必要性は、大変重要な御指摘だと受け止めています。ニーズの優先順位については、スーパーシティにおいて住民の意見を定量的に把握し、根拠に基づいて政策立案していく(EBPM)仕組みを整える予定です。 それ以外についても、スーパーシティとして採択された後に作成する区域計画(基本構想)に研究、検討を重ねてしっかりと盛り込めるよう努めていきます。
10	民間企業と重複するような事業は避けるべきだと思う。すでに当該事業領域に取り組んでいる民間企業があれば、積極的にアプローチ・ヒアリングして、彼らを誘致して事業実施してもらえよう環境整備さえできれば、行政の費用負担を抑えつつ、税収も増えて良いと思う。	1件	本案を実現させるためには、すべてを行政が担うことは単に費用の面だけでも現実的ではないことから、企業が民間資金を活用した事業を実施することが欠かせません。民間の事業が活発化すれば経済、税収などに良い効果が見込まれることは御意見のとおりだと考えています。 一方、行政か民間かに関わらず各者の保有するデータを連携させる仕組みづくりはしっかりと行政である本市が主導して、情報保護の安全性の確保し、安心感を高めていきたいと考えています。
11	本計画は国家戦略特区法に基づくものとの記載がありますが、特区そのものに規定はありません。仮に3月26日締め切りの公募への応募資料に関する計画だとして、提案様式とも全く異なるため、この計画がどのように提案	1件	本案は、スーパーシティ型国家戦略特別区域の指定に係る提案骨子です。本パブリックコメントは、本案をもとに市民の皆様の御意見を伺うことで、本案を市民の皆様の意見を踏まえて完成させた上で、この基本方針に則して提案書を作成し、区域指定に応募

	<p>に結び付くのかについて何ら説明しないというのはいかがかと思えます。特区法のどの規制緩和を行うのかなど、市の考える特区の姿を明確に見せなければ何をパブコメしているのか不明確ではないでしょうか。</p>		<p>することを目的としています。本案と提案書様式、その内容の関係については上述のとおりであります。基本方針(案)において説明が不明瞭であったことは申し訳ありません。どのような規制緩和を行うのかについては、オープンハウスと住民説明会において説明させていただき、また、基本方針にも追記しました。スーパーシティは、国家戦略特別区域法において、採択された後に区域計画(基本構想)の作成と基本構想への住民その他の利害関係者の意向の反映が求められています。あらためて先端的サービスの内容やどの規制緩和を行うのかなどの丁寧な説明を行い、市民の皆様の意向を伺い、反映させた基本構想を作成していきたいと考えています。</p>
12	<p>一番心配なのは個人データの管理です。データの収集利用に合理性透明性があり、万が一間違いが生じた時に個人の尊厳を損なわれずに修正でき、最終的には消去することが大切だと思いますし、それが市への信頼にも繋がると思っています。収集するデータが本人の同意を得ており、目的に添った範囲であり、だれがどのように管理利用消去するか、第三者に情報を提供する場合はだれに提供しだれが最終的に消去するのか、それら全体をだれが確認するのかをはっきりさせてください。実施者とは別の機関が確認に関わることも必要だと思います。</p>	1件	<p>本市は、今後幅広い活用が見込まれる個人データのセキュリティ確保やシステムの安全性・透明性担保等に対する市民等の懸念を和らげ、地域に先端技術を社会実装していく際の中心は常に市民であることを示すため、(1)自立の尊重、(2)無危害、(3)善行、(4)正義の4原則からなる「つくばスマートシティ倫理原則」を制定しています。この原則のもと、御心配の個人データの管理については、市民の同意/許諾を得ながら進める「オプトイン」方式を基本に考えています。また、例えば一度は同意したサービスを簡単にやめることができる仕組みになっているか、事業者が取得したデータが適正に取り扱われているかなど、利用者の</p>

	<p>またその個人データの所有権は本人にあることを保証し、その本人が、どこにどの様なデータがあるのか把握でき、だれがいつアクセスしたのかの履歴を見ることができ、自分のデータを確認修正削除できるようにしてください。</p>	<p>権利や利益を保護する観点でチェックが可能な仕組みを導入したいと考えています。</p> <p>我が国においても、内閣府による「スーパーシティ/スマートシティの相互運用性の確保等に関する検討会」において、収集されるデータは、課題を解決するための必要最小限であることが必要であり、個人情報又はプライバシーに関連するデータについて、サービスの実施に不要なデータの取得又は蓄積をさけることとされ、何を何のためにどのように収集、共有、防護されていくのかという情報を広く公開し、透明性をあげ、住民の理解とフィードバックによる変更ができることが必須であることとされています。</p> <p>このようなことから、取組を検討する際には、透明性確保、説明責任の明確化、プライバシーの保護などを念頭に置き、何が必要なデータであるかを十分に吟味して進めていきます。</p>
13	<p>住民合意をしっかりと得てから進んでほしいです。そのためにも、今回の取組によって市民の生活の向上を目指すのみならず、市民一人ひとりの権利と個人情報を市が守っていく決意と具体的な方策を明らかにし、住民の理解を得て進めてほしいです。</p>	<p>1件</p> <p>住民の方のご意向の把握については、本パブリックコメントのほか、オープンハウスや住民説明会を市民の皆様を対象に開催し、意見交換を行ってきました。提案内容にはこれらの機会を通じて把握させていただいた意見を反映させています。</p> <p>スーパーシティは、国家戦略特別区域法において、採択された後に区域計画(基本構想)の作成と基本構想への住民その他の利害関係者の意向の反映が求められています。あらためて先端的サービスの内容やどの規制緩和を行うのかなどの丁寧な説明を行い、市民の皆様の意向を伺い、反映させた基本構想を作成していきたい</p>

			<p>と考えています。</p> <p>市民の皆様の権利と個人情報の保護についても、本構想を進める上で最も重要な事項のひとつであると認識しています。市民の同意/許諾を得ながら進める「オプトイン」方式を基本に考えています。また、例えば一度は同意したサービスを簡単にやめることができる仕組みになっているか、事業者が取得したデータが適正に取り扱われているかなど、利用者の権利や利益を保護する観点でチェックが可能な仕組みを導入したいと考えています。</p> <p>市民の皆様にきちんと理解していただけるよう、適切かつ丁寧な説明を行っていきます。</p>
14	<p>つくば市はスーパーシティになんてならなくても、もっと他のことでスーパーな街になれます。なんでも先端になればいいってことではないです。一旦導入したら後戻りするのは難しいと思うので、間違った方向へ向かう前に今やめておくべきです。</p>	1件	<p>ご意見の通り、先端技術ありきで考えるのは本末転倒であると考えております。つくば市は、市民の困りごとを解決するために必要な技術を道具として活用していきます。また、最先端の科学技術を用いた暮らし、サービスは強制されるものではなく、それを本当に必要としている人に新たな選択肢を与えるものにするために進めていきたいと考えています。</p>
15	<p>さまざまな研究機関が持つシーズを実証実験を経て社会実装するというくだりがあるが、研究機関はつくばに立地しているがつくば市のために研究しているのではないので、つくば市における実証実験などについてはつくば市が研究機関とどのような連携を図り、実験フィールドを提供し、どのような支援をすることにより、つくば市における実装をバックアップするかについて明確に提示し</p>	1件	<p>スーパーシティについては、筑波大学、産業技術総合研究所、農業・食品産業技術総合研究機構、防災科学技術研究所その他の市内の主要な研究・教育機関等と連携・協力のもと進めています。</p> <p>御意見にあるようなフィールドの提供をはじめとする支援体制は重要であると認識しており、社会実装につながるよう、その方策等についてもしっかりと議論を重ねて、実現につなげていきたいと考えています。</p>

	<p>なければ研究機関側からの協力が得られないのではないかと考える。そのため、これまで以上の連携についてつくば市として取り組む姿勢とともにそのための方策を提示すべきではないでしょうか。また、これまでにスマートシティ形成に向けつくば市として提示している連携内容があるのであれば明示してはどうでしょうか。</p>		<p>本市はこれまで、上述の研究機関等と協働し、つくば Society5.0 社会実装支援事業による最先端技術の実証実験の支援や移動ロボットの自律走行技術向上を目指すつくばチャレンジの支援などを行ってきており、これらの経験や実績を踏まえてスーパーシティの推進に取り組んでいきます。</p>
16	<p>案にもあるようにつくばは研究施設・大学が立地し、住民も多様な様々な先端的な取組ができる条件が整っていると感じています。ぜひつくば市として先端的な取組の実現に向け中心的な役割を担っていただければと思います。</p>	1 件	<p>科学技術が集結するつくば市の特徴を活かし、最先端技術の社会実装と都市機能の最適化を進めていきたいと考えています。</p> <p>スーパーシティの実現のために、国は地方公共団体の強いコミットメントを求めています。誰一人取り残さない、市民中心のスーパーシティを目指し、御期待に応えられるよう中心的な役割を果たしていきます。</p>
17	<p>誰一人取り残さないといいつつ、市民の誰もが理解できるような単語・用語を使わない市政は不要です。</p> <p>まるで市民を実験材料のように扱い、PRに利用するような当企画への参加を強く反対します。市民を実験材料にするのはいい加減にやめてください。</p>	1 件	<p>カタカナを多く用いるなど、市民の誰もが理解できるような単語・用語に対する配慮に欠けていたことは反省点として受け止めています。表現の変更や注釈の記述を加えます。(下記、■修正の内容「わかりやすい表現への変更」参照)</p> <p>また、今後は市民が理解できるよう可能な限り分かやすい表現に努めていきます。</p> <p>市民の困りごとを解決するために最先端の科学技術を用います。それは強制されるものではなく、それを本当に必要としている人に新たな選択肢を与えるものにしたいと考えています。これにより、誰一人取り残さない、市民中心のスーパーシティを目指していきます。</p>

○対象地域について

No.	意見概要	意見数	市の考え方
1	特区法に基づく規制緩和を活用することを考えているのであれば、規制緩和の対象となる区域については明示すべきであり、計画において明確なエリアを図示すべきであると考えます。また、対象区域を区切らない市民全体へのサービス提供などについては対象区域を区切らない措置であることを明確にすべきです	1件	規制緩和を活用するスーパーシティの対象地域としては、筑波地区の一部(小田)、荃崎地区の一部(宝陽台)、筑波大学周辺及び筑波大学キャンパス、つくば駅周辺となります。 (下記、■修正の内容「対象区域の記載」参照) 規制緩和を要しないサービスは、これら4つの地域以外の市域全体での実装に向けて取り組んでいきます。

○先端的サービスについて

No.	意見概要	意見数	市の考え方
1	基本方針(案)に示されたサービスは、実験として行うことはできても、社会に広く普及するためには、技術だけでは解決できない、利害調整、事故・トラブル時の責任問題、個人情報流出問題など、たくさんの課題があるものばかりです。 こうした解決すべき課題には何も触れず、聞こえの良い言葉ばかりを並べた基本方針(案)では、出口までを見据えた地に足ついた道筋が示されておらず、パフォーマンスに終わる可能性が高いと考えています。	1件	実験の成果を社会に広く普及させていくために多くの課題があるとの大変重要な御指摘だと受け止めています。 スーパーシティは住民目線で2030年頃の実現される未来社会をつくる取組です。それを目指し、課題を明らかにし、説明責任を果たし、透明性を確保しながら進めていかなければならないと考えています。 したがって、課題が残された技術については、実証実験を重ねて一つ一つその課題を克服しながら、順次、社会に普及させていくことで、適切なサービスの創出につなげていきたいと考えています。
2	現在、つくば市では放置自転車がが多く、駅前の土地が有効活用されていません。自転車を放置する理由は様々ですが、盗難と故障によるものが多数あると考	1件	本案の5先端的サービスに、パーソナルモビリティの導入と自動運転車のオンデマンド配車の施策を掲げています。放置自転車にGPSを搭載したシェアリングシステムについては、この

	<p>えられます。SDGs の観点からも、放置自転車を減らすことは重要です。そこでつくば市内のまだ使える放置自転車に GPS チップを搭載したシェアサイクルシステムを提案します。</p>		<p>施策に関連性のある興味深いアイデアです。</p> <p>本市では、公共の場所等における放置自転車等を防ぐことにより、歩行者の通行と安全を守ること、災害時のスムーズな救済活動を行うこと、市民生活が快適に守られることを目的に、つくば市自転車等放置防止条例を定めています。引き続き放置自転車対策を進めていきます。</p>
3	<p>ゴミ集積場があふれることも多いので、ゴミ収集箱にセンサーを付け、収集箱のなかのゴミの量を検出、回収すべきタイミングを教えてくれることで、無駄なごみ回収を減らし、渋滞も解消する、CO2と削減にも貢献する取組ができないか？</p>	1件	<p>御提案のような取組として、スペインのバルセロナでは、ゴミ収集箱の満/空状況を自動で計測し、インターネット経由で情報を送信することで、市のごみ収集作業の効率化や経費削減を行っています。</p> <p>このように既に成果が出ている取組があることから、本市におけるサービスとしても取り入れていけるか検討していきたいと考えています。</p>
4	<p>パーソナルモビリティ導入と自動運転車のオンデマンド配車に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自転車、車イス、ベビーカーなどさまざまなツールで実際に移動してわかるのは、段差と道幅、道路のテクスチャーの改善を要望します。 ・信号機について歩車分離、横断歩道すべてに信号機あるいは自動検知で車を止めるサインを表示することを要望します。 ・道幅が狭い、歩道の確保がない、歩道が暗いなどの理由です。これにより、学童生徒の自立的な移動を妨げされることに加え、保護者が送迎する必要があり、育児介護における負担が大きい 	1件	<p>非常に重要な御指摘で、実際の移動には、車両などの乗り物本体の技術だけでなく、通行する道路環境が極めて大切だと考えています。今後、自転車や車イス、ベビーカーに加えてパーソナルモビリティや自動配送ロボットなどの新たなモビリティ(交通主体)が登場することから、その重要性はより一層増すものと理解しています。</p> <p>スーパーシティにおいては、こうした様々な交通主体が限られた空間を通行するための交通ルールの見直しを国に対して求めています。あわせて段差の解消等による道路インフラの整備、環境改善を図るとともに、様々な交通主体の通行を踏まえた通行位置、導線など、新たに求められる道路構造を検討していきたいと考えていま</p>

	<p>です。 まずは導線の確保、インフラ整備をお願いします。</p>		<p>す。</p>
5	<p>「地域共通健康カルテ」とありましたが、これはどういった仕組みでしょうか？医療情報の統合、また介護分野との連携はぜひ進めていただきたいと思います。</p>	1 件	<p>「地域共通健康カルテ」は、運動や食料品購買履歴などの生活習慣情報や健康診断結果などの医療情報を本人の希望で、医療機関や事業者等との間でそのカルテを共有化できる仕組みを想定しています。</p> <p>さらに詳しくは、スーパーシティ基本方針(案)住民説明会の資料にその内容を記載しています。令和3年2月15日(月曜日)に開催した YouTube 配信による住民説明会について、録画映像を公開しています。以下の外部リンクより御覧いただけます。</p> <p>https://www.youtube.com/watch?v=WzJr_wuypaM</p>
6	<p>学校の体調管理のデジタル化は完全にプライバシーの侵害です。どこに情報漏洩するか分かりません。</p> <p>顔認証は監視社会を作り出し中国の様に自由が無くなります。</p> <p>ドローン配送に至っては、街中をドローンが飛び交っていても当たり前になったら怖いです。カメラが搭載されたらこれもプライバシーに関わる問題です。</p> <p>インターネット投票は不正投票につながるので必要ありません。先月行われたアメリカ大統領選挙から学ばないといけません。ドミニオンがいい例です。インターネットに繋いだ時点で不正はいくらでも出来ます。</p>	1 件	<p>つくば市では、今後幅広い活用が見込まれる個人のデータのセキュリティ確保やシステムの安全性・透明性担保等に対する市民等の懸念を和らげ、地域に先端技術を社会実装していく際の中心は常に市民であることを示すため、(1)自立の尊重、(2)無危害、(3)善行、(4)正義の4原則からなる「つくばスマートシティ倫理原則」を制定しています。これにより、スマートシティ化の透明性を確保し、説明責任の明確化するとともに、御心配のプライバシーの保護、情報漏洩の防止などに適切に取り組んでいきたいと考えています。</p> <p>なお、学校での体調管理のデジタル化は、匿名加工情報の活用を想定しており、個人の体調管理データを直接扱うものではありません。</p>

7	<p>スーパーシティになってしまったら5Gをどんどん推し進めていく流れになるでしょう。5Gは安易に導入するべきでは無いと思います。精神障害、子どもの病気、身体へのリスクが半端では無いです。もう充分便利な世の中です。利便性ばかり追わず市民の健康(精神面も含む)を第一に考える政策をお願いします。便利な世の中になっても市民全体が病気になってしまったら意味が無いです。</p>	1件	<p>5G等の通信環境整備については、総務省の法令等や地域のニーズを踏まえて適切に対応していきます。</p>
8	<p>配送、移動でも無人トラックの連結配送、ドローン配送、無人タクシー、無人バス、無人トラック、無人ごみ収集、走行中の時間を走る映画館など、様々なサービスを期待したい。</p>	1件	<p>移動分野、物流分野も含め様々な分野の社会的課題やニーズに対する様々なサービスの実現に向けて、御期待に応えられるよう取り組んでいきます。</p>
9	<p>個別の分野ごとに、特区法による規制緩和があるのかないのかを明示し、規制緩和による実現でない部分についてはどのように実現していくのかを明示できるものは明示してはどうかと考えます。実現手段がある程度現実味を持って検討しているものでなければ国に採用されないのではないのでしょうか。</p>	1件	<p>本家で想定している規制改革の記述を加えます。(下記、■修正の内容「規制改革の記載」参照) スーパーシティの提案書には、広範かつ大胆な規制・制度改革の提案の記載が求められています。御意見のとおり、この中でできる限り具体的な規制緩和の提案を明示し、採択に近づくよう内容を充実させていきます。</p>
10	<p>モビリティに関連すると思うのですが、今後、否応なしに乗用車の動力源は電気になっていくと思われれます。その際に、充電用の施設が必要になってくると思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高速道路のPA施設 ・急速充電ステーション(一般道 	1件	<p>本市は、低炭素社会の構築に向けて電気自動車の普及を促進しています。</p> <p>今後、電気自動車の普及はもとよりデジタル化によるIoT機器の普及、それにとまなう大量の電力を必要とするデータセンターの稼働など、今後の電力需要の変化を予測したまちづくりの検</p>

	<p>路からも使用が可能) ・スマートETC出入り口も併設 といったものを特別高圧受電が可能 な地域に作り、ここをある意味基地 のように使って、EVバスが走り回る などの交通ネットワークの最適化や 自動運転車のオンデマンド配車、 パーソナルモビリティ、送迎バス シェアリング等の「移動分野」を 実現させ同時に地域振興に役立つ 施設にしてみたいかがかと考えます。</p>		<p>討は大変重要なことだと考えていま す。 御提案は、特別高圧で一括受電し、 街の一定エリアへ供給することでエ ネルギー需給の効率化、スマート化を 進め、あわせてそのエリアで先端 的なモビリティサービスを展開する というアイデアと受け止めました。 今後の検討の参考といたします。</p>
11	<p>防犯・防災・インフラ分野について、 先端技術の導入だけでなく、基盤 インフラの強化もお願いしたいです。 特に気になるのは、都市部在住の頃 には当たり前だった街灯が、つくば 市内では随分と少ないなと思いま した。通勤で田園地区を通過する ときには特にそう感じます。 先端性の付随という事であれば、 提案書の当該部分に書かれている 防犯システムと連携して、センサー による通行者の感知、通行者の時 間帯別通行方向を収集・蓄積しビ ッグデータとして用い、統計的に AIで通行者の通行方向を予測し、 特に夜間に通行する領域の街灯が 点灯する、もしくは各種街灯付き モビリティが自動配置するなどの 技術が考えられます。通行者が比 較的少ない地域では街灯の自動点 灯は有効的ではないでしょうか。 とにかく街灯を増やしてほしいで</p>	1件	<p>スーパーシティにおいては、社会課 題の解決、市民の困りごとを解決 していくことを目的としています。 この点で地域の防犯対策は多くの 市民が望むものであり、御提案 の防犯と連携したセンサーによる 通行者の感知システムは今後の 検討の参考といたします。</p>

す。暗い中での移動は防犯的な意味でも足元が見えない意味でも恐いです。		
------------------------------------	--	--

■ 修正の内容

○ 先端技術活用の位置づけ

修正前	修正後
P3 (新たに記載を追加)	P3 <u>社会全体が一人ひとりを包み込み、支え合う「誰一人取り残さない」SDGs の精神の下で、世界最高峰の科学技術を結集し、デジタル(AI、IoT 等)、ロボティクス等の最先端技術の社会実装と都市機能の最適化を進めていく。</u> <u>これにより、住民参加を基盤とし、住民と住民、住民と行政のつながりを深化しつつ、出口の見えない社会課題の克服や革新的な暮らしやすさを実現する住民中心のスーパーシティを目指す。</u>

○ 対象者の明確化

修正前	修正後
P1 (新たに記載を追加)	P1 <u>2 重点的に対象とする対象者</u> <u>高齢者、子育て世代、学生及び外国人</u> ※以降、見出し番号変更

○ 項目名 わかりやすい表現への変更

修正前	修正後
P3 GIGA スクール化	P3 <u>子どもたち一人ひとりに個別最適化された教育を行うため1人1台端末を整備する</u>

	GIGA スクール化
P3 STEAM (Science, Technology, Engineering, Arts, and Mathematics、科学、技術、工学、芸術、数学)教育	P3 <u>実社会での問題発見・解決にいかしていくための教科横断的な教育</u> STEAM (Science, Technology, Engineering, Arts, and Mathematics、科学、技術、工学、芸術、数学)教育
P4 市民の希望(オプトイン型)により、市民の属性情報に基づき個別化された(レコメンド型)情報発信も行う。	P4 市民の希望により、市民の <u>関心事や属性情報に合わせた情報発信</u> も行う。
P6 郊外と都市部間を移動するサービス、都市部において近距離を低速移動するサービスを含め、路線バスやコミュニティバス等の利用データ、携帯位置情報等人流・交通流解析に基づいた運行スケジュール管理や変動価格制(ダイナミックプライシング)、自動運転車の注文(オンデマンド)配車等、交通ネットワーク全体の最適化を図る。	P6 郊外と都市部間を移動するサービス、都市部における近距離を移動するサービスを含め、 <u>交通ネットワーク全体の最適化を図る。公共交通の利用データや、人や自動車等の移動データを解析し、運行スケジュールや価格設定に活用する。また、利用者の予約に応じて運行する(オンデマンド)バスを運行させ、AIによって最適な運行ルートを設定することで、より多くの方がオンデマンドバスを利用できるようにする。</u>
P7 「サービスとしての移動」(MaaS)のプラットフォームを構築する。	P7 「サービスとしての移動」(MaaS: <u>Mobility as a Service</u>)の <u>基盤(プラットフォーム)</u> を構築する。

○ 対象区域の記載

修正前	修正後
P1 ・高齢者が特に多い地域(筑波地区の一部) ・高齢者が特に多く、高齢者のみの世帯の割合も高い地域(荃崎地区の一部) ・学生や独身の単身世帯、外国人居住者の多い筑波大学周辺及び筑波大学キャンパス	P1 ・ <u>高齢化が進む周辺部(小田地区、宝陽台地区)</u> ・ <u>学生、外国人が生活する筑波大学周辺地区</u> ・ <u>子育て世代が多いつくば駅周辺地区</u>

・子育て世代も多く、再開発が予定されているつくば駅周辺	
P2 市域の中でも、特に高齢化が進む地区（筑波地区、荃崎地区）、学生や独身の単身世帯、外国人居住者の多い筑波大学周辺及び筑波大学キャンパス、子育て世代も多く、再開発が予定されているつくば駅周辺において、	P2 市域の中でも、特に高齢化が進む周辺部（小田地区、宝陽台地区）、学生、外国人が生活する筑波大学周辺地区）、子育て世代が多いつくば駅周辺地区において、

○ 規制改革の記載

修正前	修正後
P3 (新たに記載を追加)	P3 <u>また、国際戦略総合特区や構造改革特区における実績や知見を活かし、市民の政治・市政参加を容易にするための公職選挙法、住民基本台帳法等（行政分野）、歩行者とパーソナルモビリティの共存空間を実装するための道路構造令、道路交通法等（移動分野、物流分野）、医療情報や生活習慣情報を活用するための医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律等（医療・介護分野）、大胆な規制改革を一体的に進める。</u>

○ 表現の統一等

修正前	修正後
P3 高齢者向けスマートフォン配布	P3 高齢者向けスマートフォン・ <u>タブレット</u> 配布
P3 社会全体が一人ひとりを包み込み、支え合う「誰一人取り残さない」SDGsの精神の下で、	P3 こうして、社会全体が一人ひとりを包み込み、支え合う「誰一人取り残さない」SDGsの精神の下で、
P4 公職選挙におけるスマートフォンからのインターネット投票	P4 公職選挙におけるスマートフォン等からのインターネット投票

<p>P13 先端的サービスは、主にスマートフォン上で利用することを想定している。スマートフォンの普及率は、20代から50代までについては9割以上となっているが、70代以降の高齢者では保有率が低くなっている。したがって、高齢者向けのサービスが提供されても利用できないという懸念があるため、先端的サービスの実装に併せてスマートフォンの配布を進めるとともに、スマートフォンの操作に不安がある高齢者のために、スマートフォンアドバイザー（仮称）などの支援員の整備を進める。</p>	<p>P13 先端的サービスは、主にスマートフォン・タブレット上で利用することを想定している。スマートフォンの普及率は、20代から50代までについては約8割となっているが、70代以降の高齢者では保有率が低くなっている。したがって、高齢者向けのサービスが提供されても利用できないという懸念があるため、先端的サービスの実装に併せてスマートフォン・タブレットの配布を進めるとともに、スマートフォン・タブレットの操作に不安がある高齢者のために、スマートフォンアドバイザー（仮称）などの支援員の整備を進める。</p>
--	---

※パブリックコメントによるものではありませんが、語句を修正しました。

■ その他

本基本方針(案)については、本パブリックコメントの実施に加え、オープンハウス、住民説明会、行政経営懇談会、市議会全員協議会等での説明・意見交換を通じて市民の意見をいただけてきました。パブリックコメント以外の主要な意見と市の回答等については、以下に掲載していますのでご参照ください。

https://www.city.tsukuba.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/013/732/newsyuuminiken.pdf

また、内閣府「スーパーシティ型国家戦略特別区域の指定に関する公募」への提案資料は、本基本方針を骨子としつつ、連携事業者からのヒアリング内容や市民意見等を反映させ、作成しています。提案資料の概要は以下をご参照ください。
(基本方針と提案資料とで、各分野内の項目建てが一致していない箇所もあります)

https://www.city.tsukuba.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/013/732/newsupercitygaiyou.pdf